名古屋大学の歴史年表

年代：1871 明治 ／ 1875 ／ 1900 ／ 1925 大正 ／ 1925 昭和 ／ 1950

沿革：前身校 ／ 名古屋帝国大学 ／ 名古屋大学（旧制） ／ 名古屋大学（新制）

歴代総長

後藤新平
愛知医学校 校長
（明治14～16）

熊谷幸之輔
愛知医学校～愛知県立医学専門学校 校長
（明治16～大正5）

大島義脩
第八高等学校 校長
（明治41～大正7）

渡辺龍聖
名古屋高等商業学校 校長
（大正10～昭和10）

初代　渋沢元治
（昭和14.4.1～21.1.31）

第二代　田村春吉
（昭和21.1.31～24.5.17）

第三代　勝沼精蔵
（昭和24.7.11～34.7.10）

第四代　松坂佐一
（昭和34.7.11～38.7.10）

第五代　篠原郁吉
（昭和38.7.11～44.5.20）

第六代　戸田 淳
（昭和44.7.22～50.7.21）

年	出来事
1871 明治4年	名古屋県が名古屋藩評定所跡に仮病院を設け、ついで町方役所跡に仮医学校を設置（旧暦8月9日、名古屋大学の創基）。
1872 明治5年	仮病院閉鎖後、評定所跡に義病院を仮設。
1873 明治6年	愛知県権令井関盛艮、病院開設のために尾張・三河の30万戸から約1万円を収集する法を設ける。
1874 明治7年	西本願寺掛所（別院）に仮病院を開設。仮病院内に医学講習場を設置。
1875 明治8年	仮病院お雇い医師ヨング＝ハンスが皮膚移植手術を行う。
1876 明治9年	仮病院を愛知県病院に改称。
1877 明治10年	病院を公立病院に改称。医学講習場を公立医学講習場、さらに公立医学所と改称。
1878 明治11年	病院 医学所が天王崎町に新築移転。
1880 明治13年	公立医学所を公立医学校に改称、病院附属から独立。公立医学校が雑誌『医事新報』を創刊。
1881 明治14年	公立医学校教師ローレツの講義を『皮膚病論 斑』として出版。
1882 明治15年	公立医学校を愛知医学校に、公立病院を愛知病院に改称。後藤新平を校長兼院長に任命。
1883 明治16年	自由党総理板垣退助が岐阜で遭難、後藤新平院長が治療にあたる。
1889 明治22年	愛知医学校、政府から甲種医学校として認定される。
	大日本帝国憲法発布。
1891 明治24年	院校払下げ騒動が起こる。濃尾大地震により医学校・病院に大きな被害が出るも、総力を挙げて被災者救護活動に従事。
1894 明治27年	日清戦争（～1895）。
1901 明治34年	愛知医学校を愛知県立医学専門学校となる。
1903 明治36年	専門学校令をうけ、愛知県立医学専門学校となる。
1904 明治37年	日露戦争（～1905）。
1908 明治41年	官立第八高等学校を設置。
1914 大正3年	第一次世界大戦（～1918）。
1917 大正6年	ロシア革命（ソビエト政権の成立）。
1920 大正9年	愛知医専が鶴舞に新築移転。
1923 大正12年	愛知医大、関東大震災の被災地に救護班を派遣。
1927 昭和2年	名古屋綜合大学設立期成同盟会が発足。帝国議会衆議院で名古屋市に総合帝国大学設置を要望する建議を可決。
1931 昭和6年	官立名古屋医科大学を設置（愛知医科大学を官立移管）。名医大で人事紛争。
	満州事変が起こる。
1937 昭和12年	愛知県会で総合大学の設置を要望する建議を可決。
1939 昭和14年	名古屋帝国大学（医学部 理工学部）を創設（4月1日。愛知県が創設費の全額を寄附）。渋沢元治が初代総長に就任。
	東山地区の土地が地元の土地整理組合から無償提供される。名古屋帝大本部を西二葉町元愛知一中跡に置く。
1940 昭和15年	理工学部を開設（元愛知一中校舎を借り受ける）。
1941 昭和16年	太平洋戦争が始まる。
1942 昭和17年	理工学部を工学部と理学部に分離。理学部が東山地区に移転。
1943 昭和18年	航空医学研究所を設置（1945年末日廃止）。東山地区で名古屋帝大開学式を挙行（5月1日）。
1944 昭和19年	名高商が名古屋工業経営専門学校と名古屋経済専門学校になる。名古屋帝大本部を東山地区に移転。
1945 昭和20年	医学部（同附属医院）八高の校舎が空襲により焼失。岡崎高等師範学校を設置。
	広島、長崎に原爆投下。敗戦（8月15日）。
	岡崎高師、校舎を旧豊川海軍工廠の工員養成所跡に移転。
1946 昭和21年	旧敷地の瑞穂町に八高を復興し、新校舎の竣工祝賀式を挙行。名古屋帝国大学を名古屋大学（旧制）に改称（10月1日）。
	八高の河和校舎・寄宿舎が火災のため焼失。
1947 昭和22年	法経学部を法学部と経済学部に分離。
	日本国憲法公布（翌年施行）。
1948 昭和23年	名古屋帝国大学復興後援会が発足。
	愛知県から東山地区に土地の寄附を受ける。大学本部を元歩兵第六連隊跡（名古屋城二の丸内、名城地区）に移転。
1949 昭和24年	法学部、文学部を設置。附属図書館を名城地区に移転。
	工学部を元名古屋陸軍造兵廠高蔵製造所跡の仮校舎に移転。
	環境医学研究所を設置。名古屋工業経営専門学校を廃止。名古屋帝国大学復興委員会を設置。
	工学部が広池町の名古屋商業学校校舎を借り受け、仮校舎とする。八高、知多郡河和町元海軍航空隊跡に移転。
	名古屋帝国大学復興後援会が発足。
	新制名古屋大学を設置（別表1の6学部などを設置）（5月）。
	旧制名大、附属医学専門部、八高、名経専、岡崎高師を包括。
	瑞穂分校、豊川分校をそれぞれ八高と岡崎高師に併設。新制第1回の入学式を挙行（7月）。
1950 昭和25年	愛知県議会が政府へ「名古屋大学農学部設置に関する意見書」を提出。農学部創設後援会が発足。
	朝鮮戦争（～1953）。
1951 昭和26年	農学部を設置（安城地区）。
	サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約調印。
1952 昭和27年	岡崎高師の附属中学校・高校を教育学部附属とする。瑞穂分校跡に分校（教養部）設置。
1953 昭和28年	新制大学院を設置し、文学、教育学、法学、経済学、理学、工学の研究科を置く。
1954 昭和29年	教育学部附属中学校・高校を、東区東芳野町の市立工芸高校内の校舎に移転。
	学生歌「若草もゆる」を選定。
1955 昭和30年	工学部が東山地区に集結。大学院に医学、農学の研究科を設置。応援歌「大空に光はみてり」を選定。
1957 昭和32年	開学記念祭を大学祭と改称して開催。
1959 昭和34年	経済学部、法学部が東山地区に移転。
	伊勢湾台風により、大学施設などに大きな被害。医学部や学生などが被災者救援活動に従事。
1960 昭和35年	豊田講堂が完成。第1回名大祭を開催。
	このころ、全国で日米安全保障条約改定反対運動が起こる（～1960）。
1961 昭和36年	学生寮噯鳴寮が昭和区高峰町に移転。体育会（1956年発足）を公認。文化サークル連盟が公認団体として発足。
1962 昭和37年	プラズマ研究所を設置。医学部附属病院分院が東区東門前町の新施設に移転。
1963 昭和38年	東山地区に学生会館を開設。名大祭実行委員会の主催による初めての名大祭を開催。
1964 昭和39年	文学部、教育学部が東山地区に移転。分校が正式に教養部となる。
	大学本部、教養部が東山地区に移転。
	東京オリンピック開催。
1966 昭和41年	古川為三郎・志ま氏の寄附による古川図書館の落成式を挙行。
	農学部が東山地区に移転し、これで医学部を除く文、教育、法、経済、理、工、農の7学部が東山地区に集結。
1967 昭和42年	「医学部紛争」が起こる。
1969 昭和44年	東山地区で大学紛争が起こる。
1971 昭和46年	大型計算機センター、保健管理センターを設置。
1972 昭和47年	「研究と教育に関する大学問題検討委員会」を設置。
	沖縄がアメリカから返還。日中国交正常化。
1973 昭和48年	附属図書館医学部分館を設置。水圏科学研究所を設置。
	オイルショックが起こる。

別表1　1949（昭和24）年5月設置

文学部	教育学部
法経学部	理学部
医学部	工学部
環境医学研究所	空電研究所
附属図書館	理学部附属臨海実験所
医学部附属病院	医学部附属病院分院
医学部附属看護婦養成施設（医学部附属厚生女学部）	

※同一年の出来事は、起こった順番に記載しました。

第七代　石塚直隆
（昭和50.7.22～56.7.21）

第八代　飯島宗一
（昭和56.7.22～62.7.21）

第九代　早川幸男
（昭和62.7.22～平成4.2.5）

第十代　加藤延夫
（平成4.4.1～10.3.31）

第十一代　松尾 稔
（平成10.4.1～16.3.31）

第十二代　平野眞一
（平成16.4.1～21.3.31）

第十三代　濱口道成
（平成21.4.1～27. 3）

第十四代　松尾清一
（平成27.4.1～）

1974	昭和49年	未来材料・システム研究所、宇宙地球環境研究所を設置。
1975	昭和50年	本学の運営指針「名古屋大学松尾イニシアティブ　NU M-RAI 2020」（名古屋大学を世界屈指の研究大学に）を発表。
1976	昭和51年	天皇皇后両陛下が本学東山キャンパスを訪問。
1977	昭和52年	赤﨑勇特別教授と天野浩教授がノーベル物理学賞を受賞。
1978	昭和53年	名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院を設置。
1979	昭和54年	ナショナルコンポジットセンター（NCC）、未来社会創造機構（名古屋COI拠点）を設置。
1980	昭和55年	ユニバシアード陸上女子一万Mで経済学部4年の鈴木亜由子が優勝。
1981	昭和56年	「モビリティ・イノベーション・コンプレックス拠点」が国際科学イノベーション拠点整備事業に採択。
1982	昭和57年	「トランスフォーマティブ生命分子研究所」が世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に採択（研究所設置は翌年）。
1983	昭和58年	大学院創薬科学研究科を設置。
1984	昭和59年	学章を一部変更のうえ「名大マーク」と呼称、シンボルロゴとする。
1985	昭和60年	豊田講堂を国の登録有形文化財として登録。
1986	昭和61年	ESI総合館が竣工。
1987	昭和62年	東日本大震災。
1988	昭和63年	COP10支援実行委員会と共催で、COP10社会と学術の対話フォーラムを開催。
1989	平成元年	素粒子宇宙起源研究機構を設置（益川敏英機構長）。
1990	平成2年	本学の運営指針「濵口プラン」（名古屋大学からNagoya Universityへを発表。
1991	平成3年	名古屋大学創立70周年（創基138周年）記念式典を挙行（10月17日）。
1992	平成4年	本学が文部科学省国際化拠点整備事業（グローバル30）の拠点に採択。
1993	平成5年	情報基盤センターを設置。第50回名大祭。
1995	平成7年	本学で学位を取得し、助教授としても在籍した下村脩博士がノーベル化学賞を受賞。
1996	平成8年	本学卒業生の益川敏英博士（特別招へい教授）、小林誠博士がノーベル物理学賞を受賞。
1997	平成9年	豊田講堂改修（トヨタ自動車およびトヨタグループ各社寄附）竣工式。
1998	平成10年	小型シンクロトロン光研究センターを設置。本学の「医学部附属病院門及び外塀」が国の登録有形文化財に登録。
1999	平成11年	ファミリーマート名古屋大学店がオープン。赤﨑勇特別教授の業績を記念して、赤﨑記念研究館が竣工。
2000	平成12年	エコトピア科学研究所が大学附置研究所となる。学内保育所名古屋大学こすもす保育園を開設。
2001	平成13年	第1回名古屋大学インターナショナルアドバイザリーボード（国際諮問委員会）を開催。名古屋大学基金を創設。
2002	平成14年	第1回名古屋大学ホームカミングデイを開催。名古屋大学上海事務所を設置。
2004	平成16年	エコトピア科学研究所を設置。万博記念国際フォーラムを本学で開催。
2005	平成17年	愛知万博開催。
2006	平成18年	地下鉄名城線の名古屋大学―新瑞橋間が開通し、全国初の地下鉄環状運転を開始。
2007	平成19年	野依良治理化学研究所理事長に本学初の特別教授の称号を贈呈。
2008	平成20年	エコトピア科学研究機構、法学研究科実務法曹養成専攻（法科大学院）、大学文書資料室を設置。
2009	平成21年	留学生相談室を設置。名古屋大学が国立大学法人となる（4月1日）。
2010	平成22年	地下鉄名城線の砂田橋―名古屋大学間が開通。第1回名古屋大学東京フォーラムを開催。
2011	平成23年	情報科学研究科、生物機能開発利用研究センターを設置。
2012	平成24年	イラク戦争が始まる。
2013	平成25年	国際学術コンソーシアム（AC2）が発足（名古屋大学に本部事務局）。全学同窓会（NUAL、豊田章一郎会長）を設立。
2014	平成26年	医学研究科を医学系研究科に改称。高等研究院、別表5の3センターを設置。
2015	平成27年	理学研究科の野依良治教授がノーベル賞を受賞。教養教育院を設置。
1989	平成元年	アメリカ同時多発テロ。
1990	平成2年	環境学研究科、別表4の4センター、附属図書館研究開発室を設置。
1991	平成3年	教育学研究科を教育発達科学研究科に改称。博物館、年代測定総合研究センターを設置。全学の大学院重点化が完了。
1992	平成4年	「名古屋大学学術憲章」を制定。
1993	平成5年	農学国際教育協力研究センターを設置。
1995	平成7年	「NU」マークが名古屋大学の公式学章となる。国際言語文化研究科、別表3の3センターを設置。
1996	平成8年	京都議定書締結。
1997	平成9年	農学研究科を生命農学研究科に改称。難処理人工物研究センター、医学部保健学科を設置。
1998	平成10年	副総長（2名）を置く。名古屋大学史資料室を設置。大幸医療センターを設置。
1999	平成11年	多元数理科学研究科、理工科学総合研究センターを設置。「名古屋大学五十年史」（通史1-2）を刊行。
2000	平成12年	地下鉄サリン事件。
2001	平成13年	医学部附属病院などが阪神・淡路大震災の被災者救援活動に従事。
2002	平成14年	広報ブラザ（名古屋大学出版会寄附）が落成。教養部を廃止（翌年度から四年一貫教育を実施）。情報文化学部を設置。
2003	平成15年	広報誌「名大トピックス」創刊。大気水圏科学研究所、別表2の2センターを設置。
2004	平成16年	人間情報学研究科、高温エネルギー変換研究センターを設置。
2005	平成17年	名古屋大学シンポジオン（創立五十周年記念事業後援会寄附）が落成。
2006	平成18年	ソビエト連邦が崩壊。
2007	平成19年	国際開発研究科、言語文化部を設置。
2008	平成20年	湾岸戦争。
2009	平成21年	太陽地球環境研究所、年代測定資料研究センターを設置。
2010	平成22年	マルタ会談（東西冷戦の終結を声明）。
2011	平成23年	名古屋大学創立50周年記念式典を挙行（11月9日）。
2012	平成24年	天安門事件。ベルリンの壁が撤去。
2013	平成25年	プラズマ研究所が廃止され、文部省核融合科学研究所に発展。プラズマ科学センターを設置。
2014	平成26年	医学部附属病院分院が大幸地区に移転。
2015	平成27年	先端技術共同研究センターを設置。
1980	昭和55年	名古屋大学平和憲章を制定。
1981	昭和56年	フライブルグ大学ダムス教授に初の名誉博士号を贈呈。
1982	昭和57年	名古屋大学留学生会（NUFSA）、名古屋大学留学生後援会が発足。
1983	昭和58年	遺伝子実験施設を設置。教養部で「五十九年度カリキュラム」を実施。
1984	昭和59年	法学部社会人特別選抜制度、帰国子女特別選抜制度を開始。
1985	昭和60年	東山地区に国際交流会館（インターナショナルレジデンス）を開設。
1986	昭和61年	古川総合研究資料館が発足。省資源エネルギー研究センターを設置。
1987	昭和62年	東山地区に新図書館（中央図書館）が完成。
1988	昭和63年	情報処理教育センターを設置。
1989	平成元年	医学部附属病院分院が大幸地区に移転。
1990	平成2年	化学測定機器センター、総合言語センターを設置。理学部、推薦入試合格者が初めて入学。
1991	平成3年	日中平和友好条約調印。
1992	平成4年	大幸地区に医療技術短期大学部を併設。
1993	平成5年	アイソトープ総合センターを設置。
1995	平成7年	総合保健体育科学センターを設置。大幸地区の土地を取得。留学生会館を開設。
1996	平成8年	語学センターを設置。「四年一貫教育検討委員会」を設置。

別表2　1993（平成5）年4月設置
- 留学生センター
- 生物分子応答研究センター

別表3　1998（平成10）年4月設置
- 情報メディア教育センター
- 物質科学国際研究センター
- 高等教育研究センター

別表4　2001（平成13）年4月設置
- 地球水循環研究センター
- 発達心理精神科学教育研究センター
- 環境量子リサイクル研究センター
- 学生相談総合センター

別表5　2002（平成14）年4月設置
- 情報連携基盤センター
- 法政国際教育協力研究センター
- 高効率エネルギー変換研究センター